

# を予測

## から本格運用

池の管理者が現地で被災状況を人力したり、被災写真や動画をアップロードすることにより、国・自治体等の関係機関の間でため池決壊の有無や被災状況を即座に情報共有でき

農研機構は、今後の取組について、ため池に加え、土砂災害や河川の氾濫など、地域防災全体に関わる防災情報を集約し、総合的な防災活動に活用できるように、システム改良を行う予定。さらに、ため池の施設管理に活用したり、インフラや農業分野との情報連携を行って、災害時以外の平常時でも活用できるシステムの構築を目指すとしている。

### (概算要求)

- ▽総合農地防災(1地区)
  - ▽手賀沼(千葉県)
  - ▽直轄地すべり(1地区)
  - ▽笹ヶ峰二期(新潟県)
  - (北海道)
  - ▽かんがい排水(1地区)
- ▽中川上流(埼玉県)
  - ▽西川用水(新潟県)
  - ▽南紀用水二期(和歌山県)
  - ▽駅館川(大分県)
  - ▽一ツ瀬川(宮崎県)
  - ▽農用地再編整備(1地区)
  - (区)
  - ▽水橋(富山県)
- ▽かんがい排水(1地区)
  - ▽後志(奄美)
  - ▽かんがい排水(1地区)
  - ▽喜界島(鹿児島県)
  - (調査)
  - (農林水産省)
  - ▽かんがい排水(5地区)
  - ▽かんがい排水(1地区)
  - ▽多良間

### 食事にに関する意識・意向調査

## 台風被害の早期復旧、助成を 地域から様々な要望等が上がる

9月の活動は、北海道から始まり、秋田、千葉、長崎、大阪、香川、和歌山、京都、茨城、福井、大分、滋賀、愛知と、西

日本を中心に、土地改良区、土地改良関連の建設会社、コンサルタント会

社などを訪問し、自らの政策を訴えた。

9月に入って一つの県を2日かけて訪問するこ

とが多くなり、26、27日に訪問した滋賀県では2日間で琵琶湖を1周半し、5百人を超える土地改良区の関係者と会うなど、じっくりと地元土地改良関係者らとの意見交換を行っている。

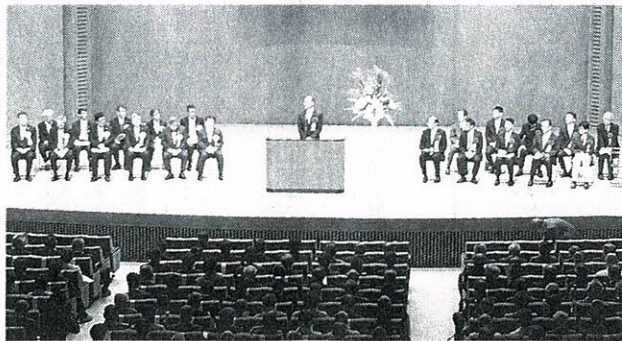
地域の土地改良関係者との意見交換の合間を縫って、3日には北海道土地改良政治連盟主催の土地改良セミナーに出席し、6百人を超える土地改良関係者を前に講演を行った。また5日には秋田県土地改良事業団体連合会創立60周年記念式典に出席し、佐竹秋田県知事、金田衆議院議員をはじめとする秋田県選出の国会議員、県議や市町村長らとに混じってお祝いの言葉を述べた。さらに29日には進藤参議院議員とともに豊川用水通水50周年記念式典に出席し挨拶した。

訪問先の土地改良関係者等との意見交換では、台風被害の早期復旧や助成を望む声が多く出された。

## 宮崎まさお 活動日誌 7



秋田県土連創立 60 周年記念式典



豊川用水通水 50 周年記念式典

他方、「土地改良法改正による複式簿記の導入には準備期間を十分に設けてもらいたい」との声や、「日本型直接支払いの制度が厳しくなっており、原点に戻って使いやすい取り組みをお願いしたい」などの声も上がった。また、「農地に太陽光発電が進出することで、土砂流出や反射による環境悪化を懸念している」との意見もあった。

頻度では、1週間に1回以上(ほとんど毎日)、「2日に1回」及び「1週間に1〜2回」の合計)と回答した割合は、「食料品スーパーマーケット」では、「3千円以上5千円未満」が35.1%、次いで「千円以上3千円未満」が34.5%、「コンビニエンスストア」が45.8%、「なし」が25.2%、「地元の小売店」が96.5%と最も高く、次いで「コンビニエンスストア」が31.1%、「地元

買物1回当たりの食料品購入額について、「食料品スーパーマーケット」では、「3千円以上5千円未満」が35.1%、次いで「千円以上3千円未満」が34.5%、「コンビニエンスストア」が45.8%、「なし」が25.2%、「地元の小売店」が96.5%と最も高く、次いで「コンビニエンスストア」が31.1%、「地元

に、最もよく利用する店について、「食料品スーパーマーケット」が90.8%、「地元の小売店」が43.3%、「コンビニエンスストア」が31.1%の順。

食料品の買い物で最もよく利用する店までの交通手段について、「自分が運転する自動車、バイク」が78.3%、「徒歩又は自転車」が12.3%、「家族、知り合いが運転する自動車」が8.8%、「バス、タクシー、鉄道」が0.3%の順。

食料品の買い物で「不要品」が79.0%、「調理済み食品の宅配」が33.6%、「野菜類」が33.6%、「肉類」が33.6%、「魚類」が33.6%、「卵類」が33.6%、「調味料」が33.6%、「加工食品」が33.6%、「冷凍食品」が33.6%、「乾物」が33.6%、「調味料」が33.6%、「加工食品」が33.6%、「冷凍食品」が33.6%、「乾物」が33.6%

の割合が最も高かったのは、「肉、魚(刺身を含む)、野菜などの食材を調理する」で87.1%。「たまにそうしている」の割合が最も高かったのは、「加工品(冷凍食品など)を購入して調理する」が59.2%、次いで「お惣菜(調理済み食品)を購入する」が33.6%、「野菜類」が33.6%、「肉類」が33.6%、「魚類」が33.6%、「卵類」が33.6%、「調味料」が33.6%、「加工食品」が33.6%、「冷凍食品」が33.6%、「乾物」が33.6%

農業用水の漏水がわかります!

「海産物」が33.6%、「調味料」が33.6%、「加工食品」が33.6%、「冷凍食品」が33.6%、「乾物」が33.6%